

失語症とは

脳血管障害や頭部外傷などによる脳損傷の後遺症で、言葉（聴く・読む・話す・書く）を介したコミュニケーションが困難になる障害です。症状や重症度は脳損傷の部位や大きさなどにより様々です。通常は病前の人格や知性などは維持されます。

「聴いて理解すること」「読んで理解すること」「話すこと」「書くこと」が難しくなります。症状は人それぞれで、周りからは分かりにくい障害です。

身体の障害（例：右半身麻痺）を合併している場合には、比較的支援の手を差し伸べられることも多いと思いますが、失語症のみの場合は見た目では分からないため、認知症や知的障害に間違えられることも少なくありません。また、当事者が自身の言語障害について説明することも難しく、自分から助けを求めることも困難です。そのため、コミュニケーションを必要とする外出や公共交通機関の利用に対して消極的になってしまうこともあります。

失語症があっても、慣れた環境下で、決まったパターンで行動することは、複雑な言語コミュニケーションが必要ないため、ほとんど問題がありません。一方で、初めての場面や想定外の状況、あるいは言語での複雑なやりとりや速やかなコミュニケーションを要求される場面は、失語症者にとって大きなバリアとなります。

コミュニケーションの工夫

失語症は個別性の高い障害なので、すべての方に有効なわけではありませんが、失語症のある方とのコミュニケーションには、一般的には以下の方法を併用すると効果的です。周囲の人がこれらの工夫を取り入れることで、失語症者のバリアを取り除き外出しやすい環境づくりにつながります。

※失語症は通常、知性や判断力は保たれています。

- ・ ジェスチャー、絵、地図や写真など、言葉以外の方法を使う
- ・ ゆっくりと話す
- ・ 要点を文字で書いて見せる
- ・ 選択肢を提示して選んでもらう
- ・ はい・いいえで答えられるような質問をする
- ・ 言葉や文字が出るのを待つ



また、意思表示の補助・代償手段としてコミュニケーションボードや筆談具、最近ではスマートフォンを活用できる方もいます。それぞれの方が使いやすいツールを選び、自分の環境や行動に合ったものを用います。

お出かけサポートカード（失語症）の特徴

このカードは、失語症のある方が公共交通機関を利用する際、支援してほしい内容、配慮してほしい内容を伝えるためのカードです。バスや電車をはじめ、様々な場面で使用できます。

- ・失語症のあるご本人だけでは作成が難しいかもしれません。その場合は、ご家族や ST など支援者と相談しながら一緒に作成してください。
- ・携帯の仕方の例：ヘルプマークに付ける、首から下げる、鞆に付ける、パスケースに入れる、など。

【特徴】

①カスタマイズしやすい

- ・使う方に合わせてメッセージの選択ができ、自由入力も可能
- ・イラストなしも選択可能

②簡潔かつ具体的なイラスト

- ・「聴く」という言葉に対して『耳』、「トイレはどこですか？」という言葉に対して『便器』を使用するなど、失語症の方々がカードを選択しやすいよう、シンプルでイメージしやすいイラスト

③携帯の利便性とメッセージの読みやすさ

- ・パスケースに入れやすいよう IC カードの大きさに統一
- ・メッセージは文字の大きさやフォントなど、読みやすさにも配慮

④白黒印刷を想定したモノトーン表現

- ・白黒印刷しかできない場合を想定して、なるべく白と黒の 2 色のみを使用してイラストを作成

⑤性別や年代を問わず使いやすいデザイン

- ・すべての年代が使いやすいよう、特定の年齢を感じさせないモチーフを採用
- ・カードをランダムに組み合わせても統一感が出るデザイン

【発展】

- ・失語症のある方が外出する際のサポートとして作成したカードですが、他の障害（例えば高次脳機能障害、構音障害など）のある方など、どなたでもお使いいただけます。
- ・電車、バス以外にもタクシーや買い物など多くの場面で使えることを期待しています。自由にメッセージを入力して、オリジナルのサポートカードを作ってください。